

開発の特徴	作成日付	更新日付	作成者	承認者
ID:2-1s-00600				

開発上の特徴	変更前情報および変更理由
<p><u>制作系のボリュームが大きい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化のため全面的にシステムを導入するが、情報誌そのもののリニューアルがある分、商談や制作依頼といったパーツと比べると、原稿作成や進行管理、その後の台割インデックス作成など、制作系機能のボリュームが極めて大きい。制作ならではの特殊な要件も多く、専門的な知識が要求されるため、ある一定の知識や技術を持った担当者が、専任で担当するようにする。 ・旧制作システムを踏襲する機能もあるが、ソースやドキュメントをそのまま流用することはしない。他のパーツ同様、一から要件定義を行うものとする。 尚、要件検討において「今までと同じ」と流される可能性があるが、仕様に齟齬を来たす基になるので、そのような進め方は絶対にしないよう、プロジェクト内で徹底する。 ・これまでの業務は人手を介する部分が非常に多く、複雑だった。本プロジェクト終了後の業務は、極めてシンプルに思えるが、旧来と業務の流れも利用システムも変わるため、現場での混乱が予想される。 システム開発のみならず、業務設計部分もきっちりとした体制を組み、役割分担を明確にし、早期に計画をスタートさせる必要がある。 <p><u>既存システムと新システムの整合性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勘定系システムのデータの一部が新システム側に受け渡されるが、データのインターフェースは一方向とする。中長期的には、逆のインターフェースも考えられるが、本プロジェクト内で検討するには範囲が広すぎて、コストやスケジュールへの影響が計り知れない。現時点で、明確にスコープ外として定義しておく。 <p><u>WEBアプリケーション方式</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内外の実績としては CGI 方式が多く安定感があるが、メンテナンス体制を継続的に確保して行くことや、CGI 方式がサーバ資源を多く消費すること（CGI 起動処理や DB への接続処理に関するオーバーヘッド）への対応を考えた場合、CGI 方式よりも JAVA ベースのアプリケーション方式を採用する方向で検討を進める。 	